

日韓対立の原因と今後

コリア・レポート編集長 辺 真一
ビヨン ジン 一イル

- *日韓対立の経済的影響を考える
- *互いに相手を非難する映画やメディア
- *元雇用問題を巡る対立の経緯
- *日本からの賠償金は経済援助だった
- *求められているのは言葉ではなく行動
- *文政権の任期から対立はあと3年続く
- *対日融和政策が袋叩きにあった過去
- *大統領任命の閣僚を国会が審査する韓国
- *検察改革が求められてきた背景
- *検事出身でない法務大臣という意味



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、コリア・レポート編集長の辺さんにおいていただきました。特にご紹介を詳しくする必要もないかと思いますが、韓国と日本の問題がたいへん膠着状態になっておりますし、北朝鮮もたいへん騒がしい行動をしております。いつも辺さんがいらつしやるとミサイルが飛んできたたりいろいろなことがございますが、今回も漁船がぶつかってきたりとか、いろいろございます。

真一 辺 今日演題は日韓関係がどうなるかというところで、北朝鮮の問題よりもそちらがわれわれにとっては今非常に頭の痛い問題でございます。さすがの辺さんも解さほぐせるかどうか私も心配なのでございますが、じっくりお話を伺い

したいと思います。

（拍手） それでは辺さん、よろしくお願いいたします。

日韓対立の経済的影響を考える

辺 先ほどまで原稿を書いておりました。ちょうど1時間半ぐらい前に原稿を立ち上げました。何を書いたかといいますと、日本が例のフッ化水素を含めた戦略物資3品の韓国に対する輸出厳格化をして、今日で丸100日なんです。それから、日本が韓国をホワイト国から除外、AグループからBグループへの格下げをしてちょうど44日目なんです。それで、結果はどうなったかです。韓国にどれだけの影響、被害があったのか、日本にとってどれだけのメリット、